



令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	22	二宮 芳野	<p>テーマ：「新緑の木と花」 天候：曇り 参加者：15名</p> <p>昨日の暑さによって変って、曇りで肌寒い朝でした。それでも、航空公園には多くの来客者がいました。南駐車場は満車で入れず、東駐車場に止めることに成りました。二宮氏の名解説で、ノダフジ、ミズキ、イチヨウ、ユリノキを解説、ギョイコウは半分くらい花弁が落ちていました。その後、日本庭園に行き、筍に養分を捕られた竹が茶色に色付いていました。「竹の秋」の季語を説明いたしました。少しハードな行程でしたが、皆さんに満足して頂けたようです。</p>	 <p>野田藤</p> <p>「のだふじ」は今から約600年前からその美しさで知られ、室町幕府二代将軍・足利義詮（よしあきら）が詠んだ歌が有名で野田（大阪市福島区）の地名が全国的になったと言われています。「吉野に桜・野田の藤・高雄の紅葉」は三大名所と言われます。樹齢1200年を超え、天然記念物に指定されている埼玉県春日部市の「牛島に藤」もよく知られています。</p>	 <p>イチヨウ</p> <p>イチヨウ科イチヨウ属の落葉樹。秋の紅葉や茶碗蒸しに使う銀杏で馴染み深く、公園、学校、街路、社寺等に植栽される。約2億年前の中世代ジュラ紀に栄え、現在まで種を絶やさずに続く歴史の長い木だが、その仲間の多くは恐竜と共に氷河期に絶滅し、現在のイチヨウ科の木はこれしかない。このためイチヨウはメタセコイヤと共に「生きた化石植物」と呼ばれます。</p>	
5	27	佐藤 渡辺	<p>テーマ：公園を彩る自然の『色』～色にまつわる色々な話～ 天候：晴 参加者：9名</p> <p>彩り多いこの時期、テーマを『色』に設定。色の見え方、色素、色素の役割、色素の利用（染料）などについて植物を観察しながら解説しました。 <観察した主な植物> ヤマグワ、サツキ、ピラカンサ、モッコク、ミズキ、ヤマハゼ、アジサイ、ヤマボウシ、サンゴジュ、クチナシ、ヤゼウツボ、シャリンバイ、ヤグルマギク、ラベンダー、セキショウ、シラカシ、スダジイ</p>	 <p>葉っぱはなぜ緑色？（写真はトチノキ）</p>	 <p>自然界では何色の花が多いでしょう？（写真はヤマボウシ 花びらに見えるのは苞）</p>	

6	24	松本	河野	<p>テーマ：目指せ、万太郎！ 牧野富太郎博士の貢献を知る 天候：晴れ 参加者：7名(1名はFIS)</p> <p>NHKのTV小説「らんまん」にあやかり、牧野博士の功績や新種登録した植物や命名した植物を一部紹介しました。博士が命名したノダフジとヤマフジのツルの巻き方からはじまり、ネジバナの右巻き左巻き、今年3月に新種発表されたハチジョウネジバナの解説を行いました。ハスはまだ咲いていませんでしたが、日本庭園ではスイレンとコウホネが観察できました。アジサイはシーボルトがつけた学名にある「オタクサ」のエピソードを紹介しました。最後に庭園内のヤブレガサモドキで締めくくりました。</p>	 <p>アジサイの仲間 (アジサイ科アジサイ属)</p> <p>この時期の花といえばアジサイです。アジサイの学名には「otaksa」の記載があります。かつては日本の地方名とも考えられていたそうですが、今ではシーボルトが妻の「お滝」さんを偲び、献名したと知られています。この事実を突き止めたのが牧野富太郎博士とされています。</p>	 <p>ネジバナ (ラン科ネジバナ属)</p> <p>ネジバナは明るい草地や、プランターからも生えてきたりと、可愛らしい身近な植物です。実は最近になり、身近なネジバナには2種類（ネジバナとハチジョウネジバナ）あることがわかりました。このように、牧野富太郎博士が根付かせた植物学は今も進展しています。</p>	
9	23	久保	善宝				
10	28	辰尾	毛利				
11	25		鈴木				
12	16						
1	27						
2	24						
3	23						